

議長	局長	局長補佐	係長	回議	主査
					

平成27年度議員研修 「所感」

池田かつあき

## 1、ひよこカンパニー

小原利一郎社長の経営理念と実行力に敬意を表する。

解放鶏舎での「平飼い」、「独自飼料」、「栄養」、「鮮度」、「安全」、の5点にこだわった卵「天美卵」を全国18万人のお客様に通信販売で届ける。

生産過程で発生する規格外卵等の有効活用策としてスイーツに加工し、販売を行う「ココガーデン」の整備、さらに6次産業化補助金活用による「リニューアルオープン」による年間10万人を超える来客。

山と水田に囲まれた田舎において、卵の生産、販売から、スイーツという従来なかった商品開発に取り組み、賑わいを生み、新たなマーケットを創出。

地域住民との様々な連携を図るなど、同時に社員100人の雇用の創出に貢献している。

将来は三重県伊賀の「モクモク手造りファム」を目指しておられる。

前述の特色があれば卵値段が高くても消費者にアピール、こだわった経営理念が新聞、テレビ、等で報道され大きく育ってきている。いかにマスコミを巻き込むかを実感した。

## 2、カタシモワインフード(株)

明治初期にぶどう導入、全国一の規模で、大正3年にワイン醸造開始、であったが、(ぶどう御殿が街並みに見られる) 都市化と農家がマンション建設に走り、ぶどう面積減少。

畑には肥料をやらない、水やらない、地力を生かす、減農薬にこだわる。

地域のぶどう畑を何とかしようと、現在4代目の高井社長がサラリーマンからワイナリ社長に転職、耕作放棄地の解消に取り組む一方、都市に近い利便性を生かし、手弁当でのボランティアと一体となって、畑で飲む、食べる街歩きと地域独自にイベントに取り組む、消費者を巻き込んでいる。(行政の施策を取り込む) 応援団コラボ、支援して頂く組織を作る。銀行の活用。

日本の酒類に占めるワインは3,4%、内85%が輸入、国内15%、ワインはきたい人、好きな人、少人数のマニアだけでよい。

全国小さいワイナリ組織化し、ぶどうの各分野の情報のキャッチボール。毎年島根県から10トン購入。また山梨、山形からぶどう購入。特色のある取組、良いものは高く売れる。マスコミが飛びついてくる。

6次化で1次が30万円、2次が200万円、3次化が600万円で利益



率60%を超える。

ぶどう100%のジュウス、小学校に。小さい時から飲んで頂き成人すれば効果（記念品に50本から100本売れる）。ワインの搾りかすで35%のブランデー製品。残渣でノンジュウス、原価はただで有名なレストランで1本1,000円で売る。輸入品3本1000円の中で1本1000円のワインをどう売なのか、自分の市場。

特色ある栽培、ボランティア、企業、地域が一体となつての取り組みにマスコミが大々的に報道、子供の時に地域の味を覚え、後に生きる投資

北条砂丘にぶどう導入してから100年経過の歴史を有する。現在醸造用ブドウの実証圃場。これをどう生かすか、砂丘地は年々耕作放棄地が増えることが想定される。実証圃場に続きぶどう団地化を図りワイナリの取組ますべきと考える。このためには栽培者、付加価値を高めることに長けた人、商品の販売に長けた方、行政と大いに検討を重ね、それぞれの果たす役割を明確にし具体化してはと考える。そして本町の他の資源の活用、オートキャンプ場、白砂青松、体験農業、コナン館のお客さんとの相乗効果、ツーリズム北栄を目指した総合的な活生化が期待できる。

### 3、ハートランド(株)

コクヨグループにおける障害者雇用の取組「ハートランド」

投資額1億7千万円、障害者7人、内知的障害者5人、精神障害者2人、農業生産法人第1号、サラダ用ほうれんそうの水耕栽培、週休2日制、出荷量年60トン、日200kg、24時間コンピュータ管理、賃金大阪府の最低賃金にボーナス支給

挨拶が徹底していた、物事に集中して取り組み、都市部で販路も企業の支援、親企業のイメージアップ。

大企業の取組に脱帽。わが町ではなかなか取り組むことができないと感じた。

### 4、水源の里の取組、限界集落の再生

綾部市の職員の説明を受け、そのあと限界集落の水源の里古屋集落代表の渡辺さんの事例報告をお聞きした。古屋集落は京都府で一番小さな6人の集落。ここで注目したのが四方前市長の呼びかけ、「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」。どこでも何かをやろうとすると、もう少し若ければ、人が

いない、いまさら何ができるのだ、等できない理由探し。

本町にはこの地域のことはなじまなく、参考にならないが、京都に近く都市にはない栃の樹の樹齢1000年の木をはじめ1300本あるといわれる山深い、手がついてないこの地域が都市の方の魅力となり、自然を活かした開発がされるであろうと思えた。

## 5、ふるさと教育の取組

香美町。海から山までの368,77 km<sup>2</sup>、人口19400人。小学校10校、中学校4校、で将来を見据えた教育・小人数はメリット、きめ細かい、磨き上げる個の強み、多様な自然環境、(海から山地域の協力)とあるが、町の財政が大変だろうなと感じた。本町の参考にはならないと感じた。